

平成19年6月13日（水）

（午後3時00分 再開）

○副議長（上久保 修君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番20、5番 中西峰雄君。

〔5番（中西峰雄君）登壇〕

○5番（中西峰雄君）それでは、一般質問を始めさせていただきます。

私の今回の質問は3点ございます。まず、時間も時間ですので、1番目から入らせていただきます。

まず、1番目は、皆さんご案内のように、テレビ放送はデジタル化が既に始まっておりまして、2011年までに全国のデジタル化を終わって、アナログ放送が終わるということになっております。県下では有田までデジタル化されておりまして、これで本市はいつになるのかということと、そして、デジタル化するのはいいんですけども、難視聴世帯が出るおそれがかかなり強い。そのときに難視聴対策がどうなっているのかということをお尋ねいたします。

次、2番目の質問は、一つの市に二つの消防の解消についてということでございます。

言うまでもございませんけども、消防は住民の命と財産を守るという重大な使命を担っておりますけれども、合併に伴いまして、旧橋本市地域は橋本消防が、そして、旧高野口町地域は伊都消防組合、伊都消防組合というのは、高野口町と九度山町、かつらぎ町の3町で一つの消防署を持ってやっている事務組合なんですけれども、ここが高野口町の地域を担当するということになっております。

これは大変不自然な体制でございまして、統一的な消防行政上、いろいろと差し支えが

出てくる。そして、また、大規模な災害であるとか、そういうときにでも統一的な消防活動ができないということになりますので、こういう体制がずっと続いていくということは好ましい話ではございません。

それで、こういう状態を解消しなければならぬんですけども、合併の段階でこれをどうするかということを決めることができずに、当面、これでいくということだけ決めまして、先送りされてございます。

また、コスト、消防に係る費用という点から言いましても、当然、消防本部機能といいますか、管理部門の機能を橋本消防の部分と、それから伊都消防の部分と二つ、二重に持たなあかんということになりまして、どうしても割高になってございます。ざっと大ざっぱな数字でございしますが、旧橋本市、要するに橋本消防でもっているお金が約6億円と、旧高野口町が約2億円、1億8,000万円強ぐらいですかね。ざっと2億円というお金がかかっているわけです。

これは、消防体制を今後どうしていくかということもありますけども、ざっと1億円ぐらひは余分に金が要っていると。1億円というのはかなり大きなお金でございまして、今回の議会でもいろんな住民要望を受けて各議員が質問しておられますが、このお金があれば、ほぼ全部できるというぐらいのお金でございまして。どんどんできるところはもっとできますわな。

それで、こういうことがありまして、合併の前に、私が聞いている範囲では、合併後3年をめどに一つの市に二つの消防の解消をしてほしいと市議会のほうで要望を上げまして、そういうふうに努力いたしますという市の答

弁をいただいておりますけれども、この検討は、今現在、どういう段階にあるのかということをお尋ねしたい。これ、1年遅れますと、それだけ1億円の金が余分にかかっていくということですので、一刻も早い解消が望まれるということでございます。

3番目に行かせていただきますけど、3番目は財政の問題でございまして、市長の赤字転落回避の決意についてお尋ねいたしたいと思えます。

この質問の動機といいますか、契機は、私、3月の今年の予算委員会に出ておりまして、予算委員会を見ていまして、大変積極的予算を組まれてございます。その中で、こういう状態でいっていると、どうしても赤字になってしまって、立ち直りが苦しくなるんじゃないかなというふうに懸念いたしまして、市長に、最後、任期中に赤字にしないと断言していただけるかということをお尋ねいたしました。

そうしたところ、赤字にしませんと明快な答弁をいただいております。明快な答弁でしたので、改めまして、ここで市長が政治生命をかけて、政治生命ですよ。政治生命をかけてこの言葉を守っていただけるかをお尋ねしたいと。

これはどういうことかという、実際、今の橋本市の財政は実質赤字と言っていると思っております。赤字ではございません。実際、数字を申し上げますと、17年度の決算で言いますと、約3億9,050万1,000円。黒字です。先ほどお聞きしたんですけれども、18年度決算も約4,224万円の黒字でして、赤字か黒字かと言われると、今の段階では4,000万円ほど黒字でございます。

ところが、これ、いろんな数字のとり方があるんですけれども、実質単年度収支というものがございます。これは、要するに貯金で

すよね。貯金を大幅に崩して黒にしておるんです。17年度で言いますと、約15億円ぐらい預金を崩して黒字にしておりますし、18年度もかなり大幅な取り崩しをして黒字と、そういうふうになってございます。

それで、これが、基金があるから黒字を維持できているんです。この基金の内容なんですけれども、16年度、合併の前なんですけど、このときには財政調整基金を中心としました基金が約48億円ございました。それが今年当初予算で見ますと、基金が2億4,000万円ぐらいしか残っていないということなんです。

きょう、傍聴の方、何人かいらっしゃるので、ちょっとだけ解説させていただきます。これを年収、だいたい500万円の世帯に換算させていただきますと、合併する前は約128万円貯金がありまして、500万円の収入の方が約128万円の貯金がありました。現在、今年当初予算を組んだ段階で、じゃ、幾ら残っているんでしょうかと言いますと、約6万4,000円。500万円の収入の方の預金がたった6万4,000円しかないような状態にまでなっているわけです。今回、補正で若干戻していますけど、それでも換算しますと、約10万円ぐらいの貯金しかない。

こういう大幅な取り崩しと言いますかね、45億円以上の取り崩しをこの二、三年でしておるわけなんですけど、もう、次、ないわけです。ないので、そうしますと、私が見るところ、どう見ても赤字にならざるを得ないんじゃないかなと思うんです。

赤字になることは必ずしも悪いことではないということは言えると思います。というのは、企業でも不良債権の処理とか、それから、減損処理と言いますか、陳腐化した設備を会計上落としてしまうという処理をして赤字を出して、次の年に黒字転換するという手法がありますのでね。赤字になること自体が悪い

話じゃないんですけれども、ただ、赤字がずっと続いているんですね。実質単年度収支の大幅な赤字、17年度は約13億5,000万円の赤字、18年度も1億6,600万円の实質単年度収支が赤字になってございます。これが続いていくということは、実際、取り崩すべき貯金がないわけですから、赤字になってしまう。

これがいつ終わるのかということですね。やっぱり明るい面を見たいと思います。そこで、市長が予算委員会で宣言されているので、大変失礼な話なんですけども、改めまして、今議会でその決意というものをお聞かせいただきたいと思います。

壇上からの質問はこれぐらいで終わらせていただきます。

**○副議長（上久保 修君）** 5番 中西峰雄君の一般質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

**○市長（木下善之君）** 中西峰雄議員の赤字転落回避の決意についてのご質問にお答えをしてまいりたいと思います。

去る3月定例市議会予算審査特別委員会における議員からのご質問に対し、私は、「最大の努力をしながら、私の任期中には赤字の発生がないように努めてまいりたいことを決意したい」と答弁させていただきました。この決意は今も何ら変わってございません。

また、5月31日の出納閉鎖をもって平成18年度収支が確定したわけでございますが、最終的に財政調整基金では、平成17年度末と比較すると約1億7,733万円減少し、現在高としては12億1,909万9,503円となりますが、他の基金も含めた基金総額といたしましては、対前年度と比べ、約1億9,890万円増加しております。

特に、平成19年度は厳しい財政状況の中でも喫緊の課題に取り組み、合併に伴う積み残

し等が一、二年続いておるわけでございまして、積極的な予算を編成しておるのは事実であります。予算がついたからといってすべて消化するのではなく、改革できるところは徹底して改革に取り組み、後年度に赤字を出さぬよう最大の努力を行い、橋本市の歩むべき道を間違わないように行財政運営に取り組んでまいりたいと、今日まで以上に強い決意をいたしておるところであります。

議員の皆さまにおかれましても、この点、ご理解を賜りますようお願いいたしますとともに、本市の行財政改革により一層、ご協力を賜りますよう、重ねてお願いを申し上げます。

なお、残余の件につきましては、担当参与よりお答えいたします。

**○副議長（上久保 修君）** 消防長。

〔消防長（大西洋二君）登壇〕

**○消防長（大西洋二君）** 中西議員のご質問にお答えします。

橋本市と高野口町との合併に伴い、伊都消防組合に加入するについて、変則的体制の早期解消と消防体制の一本化を早期に図る必要があるため、広域消防への組織変更、もしくは伊都消防組合からの脱退することについての覚書を平成18年1月に締結いたしました。

つきましては、今後の消防のあり方として、3案について協議を重ねました。1案として、単独消防とする場合、2案として、一部事務組合とする場合、3案として、かつらぎ町、九度山町からの事務委託とする場合の3案であります。

3案ともメリット、デメリットがありますが、1案につきましては、国、県の意向に相反することになり、3案は他町のデメリットが多過ぎる。よって、2案の一部事務組合で検討すべきとの結論となりました。

つきましては、現在、2案を前提に橋本・

伊都消防業務検討会を立ち上げ、協議を行っております。

協議内容は、まず両消防が合併した場合の消防体制について、管轄面積は326.16km<sup>2</sup>、人口は9万6,016人となり、橋本市の人口割合は73%となります。両消防本部の現体制は、両消防とも1本部1署で、職員が橋本56名、伊都53名、計109名。消防車両は、ポンプ車5台、救急車5台、救助工作車2台、はしご車1台となります。消防予算は平成18年度で約9億3,000万円。人口1人当たりの消防費は約1万3,000円、常備消防費として約1万円であり、単に合併するだけであれば、橋本市の予算持ち出しについては、そんなに差異がないものと考えます。

ただし、橋本市域への消防行政となれば、管轄内における橋本市の人口推移、また面積等を考慮し、北部への消防署の設置、車両の配備等が不可欠であり、それに伴い職員の増強も生じます。

また、合併により、両消防職員の整合性を図るために貸与品等の新たな購入が必要となり、今後の協議の中で大きな課題であり、十分検討してまいります。

以上です。

○副議長（上久保 修君）企画部長。

〔企画部長（吉田長司君）登壇〕

○企画部長（吉田長司君）テレビ放送デジタル化に伴う難視聴対策についてお答えいたします。

まず、本市の地上波デジタル化の状況についてですが、現在、大阪府生駒山中継局からの電波が本市の一部で受信できております。また、五條市の枋原岳中継局からの電波も、本市の紀の川沿いで受信できます。

今後の予定ですが、国城山の橋本中継局は、平成19年度中の完成をめざして、NHK、民放4社及びテレビ和歌山において施設の整備

を計画中でございます。また、橋本柱本中継局は平成20年度の予定となっております。これらが完成いたしますと、本市内での地上波デジタルはほぼ受信可能かと思われま

す。また、難視聴対策につきましては、現在、国において辺地共聴施設で団体への助成を実施しており、今後も制度の変更、拡充も予想されますので、今後、国、県と協議しながら難視聴地域が生じないような対策を講じていかなければならないと考えております。

以上でございます。

○副議長（上久保 修君）5番 中西峰雄君、再質問ありますか。

5番 中西峰雄君。

○5番（中西峰雄君）では、最初のデジタル放送の件からお尋ねいたします。

この質問というのは、一般の住民の方からお聞きしましてね。本市は何でも県下で遅いというのが、一つ、住民の不満としてあります。インターネットのブロードバンドも、和歌山、そして田辺のほうは、向こうは先にいって、こっちは後回しになったと。そして、デジタル化も、向こうのほうは先に進んでいて、こっちは遅れているというような、住民としましては、大変不遇感を抱くと言いますか、被害者意識を持つと言いますか、そういうところがございます。

お聞きして、今年度末に電波塔ができるということですから、来年から実施されるわけですけども、それはそれで一つ確認させていただいたんですが、どうしてもデジタル放送は、今までアナログで見れていたところが見れなくなると思いますか。というところが生じてくるんです。特に、私の住んでいる地区の国城山の直下あたりは、どうしても難視聴になってしまうと思います。この辺のことにつきましては、市がどうのこうのというより、これは総務省、あるいは民放、NHK各

社のすることだと思うんですけども、まだ4年間ほどございますので、その間に住民がデジタル放送を受信できない、そして、11年でアナログが打ち切りになりますので、テレビが見れないということのないように関係諸機関と十分協議をしていただきたいと思います。これは要望でとめておきます。

2番目に移らせていただきます。消防体制につきまして、今、ご説明いただきました。このことにつきましては、消防というのは大変重要な仕事でございますので、二つの体制というのは好ましくなくて、それを解消していかなければならないという考えは同じであるということをお聞きして、それはいいんですけども、ただ、作業的にどこまで進んでおるんだというところが、もう一つよくわからない。私としては1年でも早く、この二つの消防体制を解消すべきであると思っているんですが、どうもとまっているような印象を受けます。現にとまっていると思います、言いましたね。

そもそもは、変な合併をしたからこんな話になってくるんですけども。要するにそういうことでしょうか。こういうことを積み残したまま、ほったらかしにして、「まあ、なりやええわ」とやったからこういうことになってくるので。それは言ってもしょうがないんですけどね。

橋本市の単独消防でいくのが一番好ましいというのは、消防長もおっしゃるとおりでございます。その場合に伊都消防組合のほうが立ちゆくように考えてあげなければならないということなんですけれども、その辺の検討はどこまでされたのかなど。つまり、伊都消防組合が消防組合としてやっていける、九度山町とかつらぎ町でやっていけるだけのメリットというんですかね、そういうことをうちとして何か考えてあげたのかということですか。

相手との交渉がありますので、相手が飲めるような話を何か考案されたのかということが1点。

もう一点は、伊都消防組合と橋本消防を統合するという方向でお進めになっているということなんですけれども、そうしますと、費用の負担がどうなるんですか。例えば人口割合というようなことで言いますと、7割を橋本市が持たなあかんということになりまして、実質、統合したらまた損をするという話になりますわな。まして、面積的に言いますと、向こうは過疎地帯で人口は過疎だということも含めますと、どうしても一緒になると損やというふうに私は思ってしまうんですね。実際そうやと思います。

その辺のところ、費用ということを一体どこまで話しされておるのか。例えば面積割合でフィフティー・フィフティーでいきましようというような話し合いまでいっておるんですか。そこまできちっと銭金の話も含めて話し合いをしていただかないと、ただ単に消防の体制についてどうすればええかという話し合いだけしてもらっておったのでは、これは橋本市の住民の負担が増えるだけなので、その点、体制もきちんとせなあきませんけどね。じゃ、費用の負担についてきちっとした、こちらとしての検討をされて、伊都消防組合との協議に臨まれておるのかどうかということをお尋ねしたい。

それと、もう一点は、市長にお尋ねしたいんですが、大変な時期に市長をしていただいておりまして、本当に感謝しておるんですけども、市長がこれをどこまで、いつまでに進めようかという、これも市長の決意と熱意とにかかってくる話だろうと思いますので、市長のお考えもご開陳いただければありがたいなと思います。

とりあえず、2番目の消防の件につきまし

て、ご答弁をお願いいたします。

○副議長（上久保 修君）5番 中西峰雄君の再質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）消防の合併の問題でございます。

広域組合でいろいろと議論も機会ごとに出てくるわけでありまして、非常に大事なことでございます。我々としましては、少なくとも5年以内に結論を出していかうではないかということでございますが、特に、県からも、やはり、この合併等の問題でいろいろとご意見があるわけございまして、国の定めておりますのは、おおよそ人口30万人に一つという方針が打ち出されておるわけでありまして。

そうした中で、30万人はさておきまして、やはり、地域の生命、財産を守っていく大事な消防でございますので、そこらあたりは、橋本、伊都、那賀消防署が合併するのがベターか、和歌山県が一つにするのが望ましいのか、単独の橋本市でいくのが望ましいのか、若干、消防署の考えと私とが違いがあるのでございますけれども、まだ結論は出しておりませんので、今後、議会の皆さんのご意見も聞きながら、間違いのない合併の方向を定めてまいりたい。

以上でございます。

○副議長（上久保 修君）消防長。

○消防長（大西洋二君）議員おただしの1点目の単独の消防での考えがあったのかということでございますけれども、合併するにおきましては、当初はその考えで進んでおりました。ただ、伊都消防の管理者、また、本市市長との間の調整会議の中で、広域的なものを検討してはどうかという方針のもとで対応していったおるような形です。

先ほどの委員会を立ち上げまして、現在ま

で約7回ほど会議してございます。先ほども答弁させていただきましたように、大きく分けて、橋本市消防としても北のほうへ署所を設けていただきたいということの中で調整が進んでいってございます。まだ具体的なものについてはいっておりませんが、調整はそういう方向でいかせていただいております。

それと、費用的な問題ですけども、基本的には基準財政需用額に基づいて配分が出されるであろうということでございます。

配分につきましては、合併した時点では、橋本市全体と伊都消防との合併の時点の基準財政需用額、これは逐次変わるわけですが、橋本市としては69.43%、費用の負担が要るのではないかと思います。それで、かつらぎ町が22.10%、九度山町が8.47%ということになるかと思っております。

以上です。

○副議長（上久保 修君）消防長、面積割合の件を聞いておられたように思ったんですけど。

○消防長（大西洋二君）面積については、費用負担の面積ということでお聞きしたので、面積によって費用負担は出てこないということで、ただ、総合的な面積につきましては、先ほども言いましたように、500何km<sup>2</sup>ですか、ということになってこようかと思っております。

以上です。

○副議長（上久保 修君）5番 中西峰雄君。

○5番（中西峰雄君）市長の答弁と消防長の答弁とちょっと食い違ふといひますかね。国のほうは、確かに大規模広域化とか考えておられると、30万人規模と言ひますかね、そのこともまだ検討の対象になっておるんですか。なつておるんですか、それも。それじゃ、進みようがないですね。伊都消防との合併ということの前に、まず、それを片づけんと、そんな話できませんよね。そんなことしてお

たら5年でらちはあきませんわな、早い話が。

それと、私、橋本市の議員ですので、伊都の議員と違いますので言わせていただきます。先ほどの負担割合のお話、財政規模でという話でいきますと、こんなもん、橋本市は圧倒的に不利です。それやったら、もうこのままいっとっても変わりませんという。このままいっとるほうがまだましですわ。そんなあほな負担割合で伊都消防と話しておるんやったらやめてください。

まして、人口減少社会に突入しております、恐らく橋本市も標準財政規模が減るかもしれませんが、その減少の割合は伊都のほうが大幅に大きいはずです。そういうことを考えていきますと、橋本と伊都和一緒になって、その消防の費用を橋本市が8割5分持たなあかんという日も間近に来ますよ。そんなあほな話を何で進めていっておるの。これは、しっかり伊都和けんかしてもらわなあかんと思わうんですね。

伊都消防も大変苦しい立場であるということはおわかりですし、伊都の人たちの消防の体制も守っていかなあかんというのはわかるんですけども、一つは、やはり橋本の単独消防でいきたいんだということであれば、それが本当は一番いいんです。一番安くつくし、一番体制もよく整うし、一番いいんです。ところが、こういう事態になってきて、それがいかんというふうになってきておるんですけども、こんな積み残しを置いていかれたのではかなわん話がまだほかにもあるんですけど、いろいろね。市長、市長の仕事はこの合併を完成するという事も含まれているんです。

それで、5年先という市長の任期もないので、そんな長い話せんといほしい。少なくとも市長の任期の間には、「もう合併のめどは立ちましたよ」とか、「一本化できました」というめどをお示しいただきたいなと、これ

は希望いたしたいんです。

今の点につきまして、もういっぺん、そんなあほな話、伊都消防との話もそうです。それから、広域の30万人、これは国が勝手に定めておるんですけども、都市部の30万人はいいけど、こんな過疎地帯の30万人というのは大変なことですよ、市長。そんな話をまだ検討の対象にしておると、ぬるい、先ほどぬるいという言葉出ましたので移りましたけども、話をしておったのでは、理解できません。早いこと、合併するなら合併するで方針を決めていただいて、その話を費用負担も含めまして詰めていくということを精力的にやっていただきたい。

なぜこういうことを言うかと言いますと、今年も消防は職員を採用しておるんです。これ、人員計画自体に大きな影響を及ぼすんですわ。だから、1年でも早く、この統合を進めていかなきゃならないと私は思っていますし、それと、伊都消防の人間をこっちに取るということも一つあるんでしょう。単独でやるとすればね。そういうお話も管理者会なり何なりで検討されているのかと。もっと、こちらが有利になるような提案を企画していただいて、あちらさんと誠意をもって一生懸命交渉をしていただきたいなと思わうんです。

消防長と市長の見解、特に市長には、30万人というような話が出ましたので、これをほんまに市長、まだ考えているんですか。

○副議長（上久保 修君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）国のそういう指導が県へおりてきておることは確かでありまして、県から先刻もそういう調査依頼が入ってきてございます。どういう考え方であるのかというようなことも、事実、来ておるわけでございますけれども、我々広域組合としましては、現段階としては、やはり事務的に、伊都、橋

本での統合ということを基本に一応検討してくださいよということで意見は一致しておるわけでございます。

私は、場合によっては、すべての経済効果等、経費の節減からしまして、それがベターか、あるいは、場合によっては段階的に那賀消防と伊都としますと20万人といたしますか、そういう形の中での考え方も可能であるのではないかな。30万人はさておきましてもね。

県はそういう固い方針を県下30市町村の関係のところへ出しておるということは確かでございます。段階的にこういうふうにしていくべきか、単独でいくかは今後の課題である。しかし、いつまでもほっておくということは考えてございません。

○副議長（上久保 修君）消防長。

○消防長（大西洋二君）少し説明足らずだったかもわかりませんが、広域でした場合の負担割合が69.何がしてございます。それと、今、国からの指針につきましては、今年度において県の指針が出ます。国としては30万人という方向づけがあるわけですが、地域の実情、生活圈等々を踏まえて県の指針として出てくるであろうと。それに沿って対応していかざるを得んかなと思ひながら、本市としては、支署のできている伊都消防との調整会議を行っているということです。

それと、負担割合の中で、先ほども言いましたように、北署の話をしたと思うんですが、現状の消防職員の人数で北署を設けた場合には、幾分かのマイナスはあろうかと思ひますけれども、それなりのマイナスが少なくなるんじゃないかという案で進めておるということをご理解願ひたいと思ひます。

○副議長（上久保 修君）5番 中西峰雄君。

○5番（中西峰雄君）北署も北部住民の要望の強いこととございますが、これは財政計画にも載ってない話ですよ。そういう財政計

画に載ってない話を前提に話をせんといてくださいね。

それと、負担割合69.何ぼの話ですが、結局、持ち出しになるんですね。今よりも多くなりますわな。最初からそういう不利な話し合いで交渉に臨むというのは、消防長は橋本の消防署の人なんですかと思ってしまうんですね。私はあくまでも橋本市民ですから、橋本の市民の負担のことを考えますのでね。ちょっとでも橋本にとって負担が軽くなるような負担の割合、当然、面積とか、そういうことも加味した上での数字というものをもって相手に臨んでいただきたいなと思ひます。

それと、県、県、県、県と、県、県を添えなあかんほど名前が出てくるんですけども、県はもうほっておいてください。県は橋本市民のこと考えていません、そんなにね。県は県で敬意を表して奉っておけばいいので、「はい、はい」って聞いておけばいいんです。あとは、やっぱり橋本市として本当に住民のためになる消防とは何かということを軸に、今後、積極的に話し合いをしていただきたい。

私はよく言うんですけども、期限のない仕事は延びる。今のこの消防の話も一緒です。5年をめどにと言っていますけれども、それはあくまでもぼやぼやとした期限でして、スケジュールはないんですね。だから、本当に市長にお願いしたいのは、少なくとも市長の任期の間には統合のルールをつくってもらわにゃというぐらいの勢いで取り組んでいただくことを強く要望して、2番の質問は終わらせていただきます。

次、3番です。赤字転落回避ですけども、これ、私、ここで書いているのは、先ほど申し上げましたよね。大幅に基金を取り崩しておるんです。先ほど500万円の世帯の話をしたけれども、合併の前には約130万円ほど貯金があったんですね。それが、貯金が今、約



6万円から10万円ぐらいしか、今年の予算を執行すると残っていない。私のところも10万円ぐらいの預金がありますよ。そんな状態になっていて、これで、どうして赤字にならないということが言えるんですかというところの説明をいただきたいなと思うんです。

私、よく住民の方にもお話しするんですけども、予算というのは単純ですよと言うんです。企業と違いまして、景気変動とか、あるいは売り上げどうのこうのというのはあまりないんですね。あったとしても想定の範囲内の変動なんです、入ってくるほうはね。じゃ、出るほうで大滝ダムの分担金の話、建設分担金みたいな、降ってわいたような話も出てきますけど、それも一般会計は別なので、わきへのけるとすると、要するに、200億円の予算であれば、200億円の予算でくくる予算編成をすれば、財政の赤字というのはいないのでね。それ、くくるかくくらんかというのは、市長の腹一つといいますか、あるいは、理事者の座っておられる方々の決意一つにかかっていると思うんです。

僕がよく言うのは、50万円の世帯でも足らんとする人は足らんし、20万円の世帯でもやっている人はやっていく。10万円の世帯でもそれでやっている人はいるわけですからね。

なぜこういうことを言うかというのと、ずっと赤字が、赤字になってないんやけど、実質単年度収支の大幅な赤字が続くわけですよ。これ、じゃ、いつとまるんですかと。あと、今年、今回、補正で基金の繰り出しというんですか、繰り入れというのかを減らしましたので、4億円ぐらいの基金が残っているのかなと思います。4億円残って、決算を打って見なければわかりませんが、それで来年度の予算編成が実際できるのかと。今年でも、これ、どえらい崩していますよね。10億円以上、今年も崩して予算編成しているんですね。

12億円ですか、崩していて、これ、もし当初予算のままですと、4億円ほどしかないわけですから、4億円弱しか残ってへん中で、来年度の予算編成ができるんかと。予算編成したとして、これだけの、要するに、貯金を崩して黒にしておるやつをどうやって、また黒にするんですかというところの見通し、根拠を教えてください。

○副議長（上久保 修君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）再質問にお答えしたいと思いますけども、その前に若干、訂正があると思うので、確認をお願いしたいと思います。

先ほどの質問の中で、平成17年度の実質収支が3億9,050万円ほどの黒字というお話があったと思いますけども、3,950万1,000円の誤りだと思います。

それから、基金残高につきましても、今もお話があったんですけども、17年度末で基金総額といたしましては、新市の合併時で45億9,650万円、46億円ほどあったわけでございます。18年度の決算、せんだって5月末に出納閉鎖をいたしましたところ、基金総額といたしましては44億1,775万8,115円でございます。そこから19年度の予算を当初予算で基金を繰り入れ、取り崩しを行っておるんですけども、それも入れまして差し引きいたしまして、現在、20年度の5月末ということで考えていただいたらいいんですけども、39億6,200万円ほどの基金総額になろうかと思っております。

先ほど、46億円から2億円にというようなお話があったわけでございますけども、多分、基金総額と、それから、2億円というのは、18年度の12月の段階の見込みで財政調整基金が約2億円になろうというお話もあったので、その数字を議員はおっしゃられたんだと思います。

結果的には、基金総額といたしましては、先ほど市長もお話があったんですけども、18年度決算を打った段階で約2億円ほど増加しておるといことになりますし、19年度の基金総額を見ましても、4億5,600万円ほど減りますけども、39億6,000万円ほどは維持できているという状況でございます。

○副議長（上久保 修君）答弁もれですね。見通し、それから、来年度の予算に対することも聞かれていました。

財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）済みません。

まずですけども、どうして赤字にならないと言えるのかというご質問あったんですけども、先ほど、基金の総額で言わせていただいたとおり、かなり戻ってきている、基金総額が残ってきているということでございます。

それから、確かに19年度予算につきましては、市長もお話あったとおり、合併後の積み残し、それから、高野口小学校建設、防災行政無線等、大型公共事業を喫緊の課題として取り組んでおるわけございまして、その点、非常に積極的な予算を組んでおる関係上、基金取り崩しも19年度におきましては非常な額、財政調整基金で6億4,800万円、減債基金で5億7,000万円ほど、それから地域開発整備基金で5,500万円、約12億円程度を取り崩している状態でございます。

赤字がいつとまるのかというご質問でございますけども、平成17年度の実質単年度収支で約13億円の赤字ということになっております。これは、理由といたしましては、合併時のシステム開発、庁舎改造等、いろいろと合併準備のために非常に費用を費やしたということで、財政調整基金をかなり取り崩したという経緯がございまして、実質単年度収支では13億数千万円のマイナスということになっておりますけども、18年度におきましては、

1億6,000万円ぐらいの実質単年度収支の赤にとまると。逆に言いますと、約11億円程度の、赤字を解消したというんじゃないんですけども、経費を削減したかなというように考えております。

確かに、19年度は大型公共事業に取り組んでおりますので、また、実質単年度収支では基金取り崩し等も増えてこようかと思っておりますので、赤になる可能性は大いにございます。しかしながら、19年、20年に非常に大きな事業が重なっておるという中で非常に厳しい財政状況になっておるといことございまして、21年度以降はかなり抑制できるのではないかと考えておりますし、20年度からは予算の編成方針を抜本的に変えるという計画で進めておりますので、限られた一般財源の中で予算を組んでいくということを中心に考えておりますので、できるだけ赤字の解消に努めたいなとは思っております。

以上でございます。

○副議長（上久保 修君）5番 中西峰雄君。

○5番（中西峰雄君）数字の言い間違い、済みません。3億9,050万円じゃなくて、3,950万円でした。済みません。

それと、基金の残額の話なんですけども、33億円残っているというのは、主要基金のことですかね。39億円ですか、残っているというのは、財政調整基金とか、地域開発整備基金とか減債、それで39億円残っているということですか。

○副議長（上久保 修君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）基金総額でござますので、財政調整基金をはじめといたしまして、特定目的基金もすべて入れての基金残高ということでご理解をお願いしたいと思います。

ちなみに、財政調整基金だけで言いますと、17年度末では13億9,643万4,430円あったわけ

でございますけれども、18年度決算におきましては、12億1,909万9,503円、マイナスの1億7,700万円程度と。それから、19年度の、これはあくまで見込み額ですけども、当初予算額に6億4,800万円の取り崩しを計上しておりますので、その分差っ引けば、財政調整基金だけでは5億7,110万円程度の基金残高しかないということでございます。

それから、減債基金もあるんですけども、減債基金につきましては、18年度につきましては、当初、全額取り崩すということで予算化しておりましたけれども、最終的には取り崩すことなく、全額残りまして、額的には1億7,300万円程度ですけども、全額残っておるという状況でございます。

それから、20年度につきましても、減債基金につきましては、これはふるさと創生基金からの積みかえがありますので、総額といたしましては5億2,200万円程度になるんですけども、予算上ではほとんど取り崩しということになるかと思えます。あくまで予算上でございますけど。

以上でございます。

○副議長（上久保 修君）5番 中西峰雄君。

○5番（中西峰雄君）私のほうで数字の把握

のミスがあったことをおわびさせていただきます。

ただ、基金の残高が大変減ってきていて、財政調整基金で見込みですけども、6億弱と。5億円から6億円という話の中で、細かな話は、財政の話ですのでできませんけども、私がここで確認をとりたいのは、本当に赤字、赤字といっても赤字って何よという話、定義の話でございますけども、一般的には実質収支をもって赤字、黒字というふうに言うようでございます。

再度、私が申し上げたいのは、市民のために実質収支を赤字にしないように、市長に政治生命をかけて努力していただきたいということを要望させていただいて、終わらせていただきます。

○副議長（上久保 修君）これをもって、5番 中西峰雄君の一般質問は終わりました。

○副議長（上久保 修君）これにて一般質問を終結いたします。

以上で、本日の日程は終わりました。

本日は、これにて散会いたします。

（午後3時54分 散会）